

様式第2号（第3条関係）

平成29年 8月 7日

篠山市議会議長 様

会派名 ー

代表者名 ー

又は会派無所属議員の氏名 安井 博幸



政務活動報告書

この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

1. 活動の種類： 広報広聴活動（広報紙発行・市民との意見交換）
2. 活動期間： 広報紙発行→平成29年8月1日（火）  
市民との意見交換→平成29年8月3日（木）  
10：00～11：45
3. 場所： 篠山市役所 4F委員会室
4. 活動者： 安井 博幸
5. 活動の概要：（1）「あるべきようわ」第3号の新聞折り込み実施  
（2）市名の現状維持を求める市民の意見聞き取り調査
6. 考察： 市名変更の是非についての論点・問題点を聞き取ることで、今後の市議としての一般質問や活動に寄与出来た。（添付：神戸及び丹波新聞）

7. 活動に要した費用：

費目	詳細	金額	備考
広報広聴費	広報紙印刷・折込代	123,660 円	16,000 部

## 糯ヶ坪県住跡地のその後

篠山市糯ヶ坪の県住跡地の市と県の土地交換が14年間も滞っていた件は、本年3月末、ようやく解決しました。昨年7月に私が指摘し発覚したのですが、当時2億8千万円の評価額であった合計約7千平米の土地価格は、14年で半分以上の評価額となりました。これは市の逸失利益と言えましょう。

先日、その現場を確認したところ、交換が終わった土地は、以前と何ら変わっていません。市の所有地であると示す立札も無く、雑草も伸



び放題です。市の所有となったこの土地を、市として売却も含めて何に利用するか決まっていない状況です。

- ①速やかに跡地利用を地元の意向を踏まえて検討する。
  - ②市の土地であるという表示板を設ける。
  - ③雑草の背丈が高くなる前に草刈を行う。
- 以上、3点を市に、申し入れました。

## 編集後記

6月に写真アルバム「三田・篠山・丹波の昭和」という樹林舎の本が発行された。このアルバムに私の提供した写真も3枚掲載して頂き、この本の制作に少しでも寄与出来て良かった。郷土の貴重な資料として残っていく本だと思う。妻と、この写真アルバム掲載されている懐かしい昭和の写真に見入って、その頃の思い出を語り合ったのだった。



## 前回の外出と行先アンケート結果

前回の外出と行先アンケートでは、28名より回答を頂きました。自家用車利用は71%、時々コミバスを利用する人でさえ7%と少なく、コミバスの利用が低調であることを示しています。行先の多くは、医療機関、買い物、外食でした。篠山ではマイカー無くしては生活出来ない、というのが現状です。来年4月より、各まち協単位で、地域交通の在り方が大きく見直されます。マイカーを手放しても移動できる篠山市を目指しましょう。

## 市名変更のアンケート

(該当するものに○印をご記入下さい。)

- 1) 市名変更の是非について、どう思いますか？  
 ①篠山市でよい    ②丹波篠山市に変えた方がよい    ③その他 ( )
- 2) 市名変更により、市は6,550万円の費用負担を試算していますが、どう思いますか？  
 ①容認する    ②容認しない    ③その他 ( )
- 3) 市名変更する場合、住民投票が必要だと思いませんか？    ①はい    ②いいえ
- ご意見・理由 ( )  
 お名前 ( ) 年齢 ( 代 ) 電話番号 ( )  
 ご住所 (669- )

送り先 FAX 079-594-1500 又はメールで soartech@maia.eonet.ne.jp へ

尚、このアンケートは篠山市の政策に反映させる為であり、目的外の使用は致しません。



# あるべきようわ

第3号

市民オンブズマン兵庫・篠山支部  
篠山市議 安井博幸だより

フェイスブック&ツイッター-安井博幸 検索

篠山市味間奥224-1 携帯電話 090-8389-8900 E-mail:soartech@maia.eonet.ne.jp

## 市清掃センターとNIMBY(ニンビー)

NIMBY(ニンビー)とは、「Not In My Back Yard」(我が家の裏には御免)の略語です。それは、「施設の必要性は認めるが、自らの居住地域には建てないでくれ」と主張する住民たちや、その態度を指す言葉です。清掃センター、火葬場そして下水処理場などが、NIMBY施設と言えます。

現在の篠山市清掃センターは、稼働してから15年経過し、焼却炉の老朽化に伴い、本年度より3ヶ年、約20億円かけて大規模改修されます。2基ある40トンの焼却炉を片方ずつ改修し、1炉につき約7ヶ月の工事となります。

この大改修により、少なくとも後10年は操業する事が可能となります。現在の清掃センターを出来るだけ長く使用する事が、費用対効果の面で理にかなっていません。写真のように、この焼却炉で運転中の排煙もクリーンであり、現施設にダイオキシンなどの公害問題は発生していません。

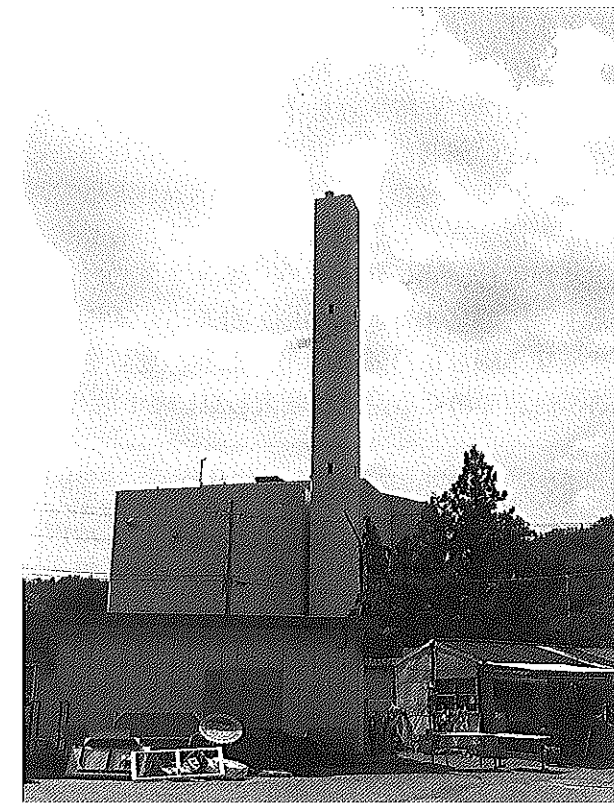
6月下旬、市清掃センターの地元である、大山下、味間北そして味間奥の各公民館に於いて、篠山市による大規模改修の説明会が行われました。施設を維持するためには必要不可欠な大規模改修であるという事に対し、3自治会の理解が得られました。

問題は、現施設について地元の3自治会と市とで25年間の使用許可の覚書が交わされていて、残る期間は10年を切った事です。この覚書には、25年の使用期間を過ぎると、現在地より5Km以上離れた場所に施設を移転するよう明記されています。

それで、市はこの覚書に従い、篠山市清掃センター検討委員会で協議し、2、3年のうちに結論を出すとの事です。覚書に従い、清掃セン

ターの新しい用地を確保する事は、大変な困難が予想されます。たとえ場所が確保できても、清掃センターを新築するには、約百億円もの経費が必要になると予想され、市財政の根幹を揺るがす投資金額と言えます。

地元の理解と協力を得て25年の期間延長をお願い、現在の場所で長寿命化を図るのが、費用対効果の点からも望ましい方向性と言えるのではないのでしょうか。それと共に、市民一人一人がゴミの分別と減量に協力いただく必要があります。地方自治体にとって、ゴミ処理費用はとて高くついているのです。



篠山清掃センターの排煙

安井博幸だよりは、政務活動費を充当し発行しています。

## 市名変更は慎重に

### 丹波篠山は愛称で！

本年2月上旬、「篠山市」を「丹波篠山市」へ改名の動きが、篠山市商工会、丹波篠山観光協会そしてJA丹波ささやまという市内の有力組織から市への要望書と言う形で表面化しました。自治体の名称と言うものは、合併時に熟慮して決めるべきもので、途中で変えるべきものではない、と考えます。それ故、私はこの市名変更には賛成しかねます。

市の広報誌のタイトルでもある「丹波篠山」という名称は、従来通り愛称として使えば良く、市が多額の費用と労力を負担してまで市名変更をする必然性は無いと思います。現在の「篠山市」の名称を「丹波篠山市」へ変更する利点よりも、巨額の費用負担や変更に伴う社会的混乱などの弊害の大きさを懸念します。県下で最も財政状況の厳しい篠山市には、市の名称変更よりも優先して対応すべき課題が山積しています。故に、名称変更の為に市民の税金を使うのは、市民サービスの優先順位として、不適切と考えます。

今回の名称変更は、氷上郡の合併時に、アンケートで最も支持された「氷上市」に決まらず、2番目の「丹波市」と言う僭越名称になったことで、横取りされた「丹波」ブランドを取り戻す為と言えます。それにより「丹波」をめぐる混乱が生じ、関係者の誇りや愛着を傷つけているように感じます。しかし、丹波市が隣接して存在する限り、丹波篠山市へと名称を変更しても、丹波をめぐる混乱が収束しないでしょう。

### 政務活動費を使って広報活動

篠山市内の朝日、毎日、読売そして神戸新聞への新聞折り込み料金は、3円/部です。市内で4紙の合計が1万5千部なので4万5千円掛ります。

出来るだけのコストを下げる為、私はカラー印刷でなく、白紙にモノクロ印刷にしています。公費を使うので、私は市内の印刷業者へ発注しています。

「丹波篠山市」への名称変更は、字数が増えるのも問題です。使い易い名称と言うのは、漢字2文字程度にすべきであり、長ければ結局短縮して普段使用されてしまうだけです。名称には使い易い字数があり、「丹波篠山市」よりも「篠山市」の方が優れています。ローマ字表記の場合、「TANBASASAYAMA」の13文字は長過ぎます。増加が期待される外国人観光客にとっても判りにくく不親切、と言えます。

旧国名などを頭に冠した名称の事例としては、滋賀県の「近江八幡市」があります。「八幡」と言う地名は全国あちこちにあり、同じ地名では紛らわしいから、頭に旧国名をつけて区別しています。しかしながら、篠山は四国に篠山と言う山と久留米市に篠山町があるだけなので、旧国名を頭に冠して「丹波篠山市」と名乗る必然性はありません。

また、篠山市は（しのやまし）と誤読されるが、丹波篠山市なら（たんばささやまし）と正しく読んで貰えるとの理由も聞いたことがあります。しかし、これもおかしい話です。正しく読んで貰いたいのなら、篠山市と書いた文書に必ず（ささやまし）とルビか、ローマ字でSASAYAMAと併記すれば、間違えて読まれることも無く、名称変更しなくて良い筈です。私の名刺はローマ字併記で誤読を避けています。

篠山市と旧国名を付けた丹波市を考える上で参考になるのが、岐阜県の高山市と飛騨市との類似性ではないでしょうか？高山市は、世界遺産の合掌造りで有名な白川村とセットにしたツアーで、外国からの来訪者も多い我が国を代表する観光地です。飛騨地方と言えば、「飛騨牛」や「飛騨家具」などが有名です。篠山が「丹波篠山」のように、高山も「飛騨高山」と呼ばれることが多いのですが、飛騨市から飛騨のブランド名を取り戻す為、高山市を飛騨高山市に名称を変更しよう、などと言う動きは、聞いたことがありません。高山市の頭に冠する必要のない旧国名が、篠山市には何故必要なのでしょう？篠山市と言う名前をもっと売り込んで、高山市のように旧国名の冠を付けなくても良いようにすべきではありませんか？

## 市名アンケート実施を

「篠山」よりも「丹波」の方が世間での認知度が高いから「丹波篠山市」に変更しよう、という声も聞きます。それで思い出しますが、以前、滋賀県の認知度が低く琵琶湖の方が広く世間に知られているから琵琶湖県にしようとする動きがありました。しかし、県民アンケートをした結果、滋賀県を支持が断然多く、県名の変更を断念されたようです。

名前は、アイデンティティ（「本人」あるいは「そのもの」であることの自他による確認）そのものです。市の名称を「丹波篠山市」に変更するかどうかは、サイレント・マジョリティ（沈黙する大多数）を含めた全ての市民の日常生活にかかわる大問題です。

\*\*\*\*\*

## 図書館のあるべき姿

生涯学習の拠点として図書館の果たす役割はとて大きいことから、現状の問題点や、将来のあるべき姿について、6月議会において一般質問をしました。

篠山市では、5月が蔵書の整理期間で、今年度は5月16日～25日の10日間にわたり図書館の休館日でした。図書館では、蔵書整理のボランティアを募集されておりましたので、私も1日だけでしたがお手伝いしてきました。現場を手伝う事で、問題点もいろいろ浮かび上がり、開館日、利用時間、郷土資料などの保管の仕方などについて色々と考えさせられました。

それで、私は近隣の、丹波市、加東市、西脇市そして三田市の図書館本館、分館そして分室を視察してきました。三田市では指定管理にすることで、休館日を大幅に減らし、開館時間を9～20時と延長する事で、市民の利便性が大幅に向上しています。同市では、本館、分館そして分室に加え移動図書館も運行されています。

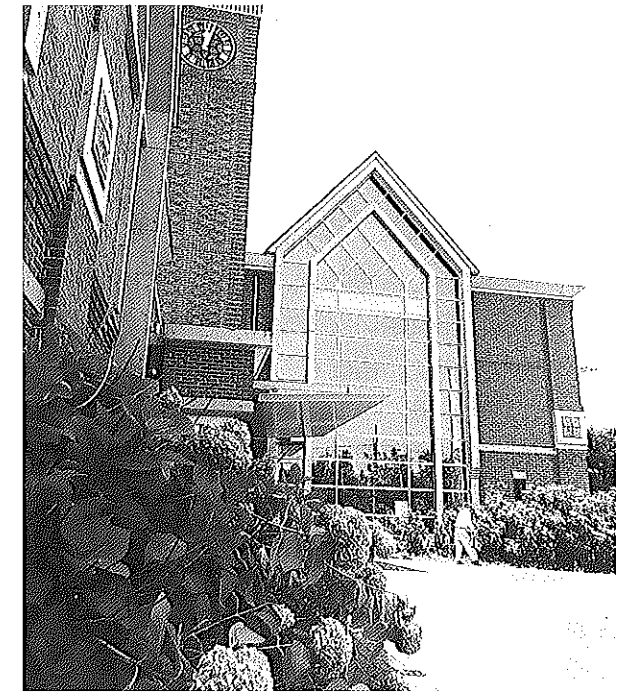
三田の開館時間延長は、サービスの目玉ですが、職員の労働環境には厳しいものがあるよう

その変更による長所、短所や誰にどのような費用負担が必要か、などの情報を、市は包み隠さず開示していくべきです。その上で、市は無作為抽出による市民アンケートを実施すべきです。アンケートでも不十分ならば、住民投票により市名変更の是非を市民に問うのが良いでしょう。しかし、住民投票するにもお金が掛かります。あまり費用の掛らない市民アンケートで、民意が何処にあるかが判れば、住民投票をせずに済むでしょう。

多数の市民が市名変更を望まれているのであれば、市名変更を議案として上程されたら良いでしょう。しかし、篠山市で良い、と言う民の声の方が多ければ、市議会に上程されるべきではありません。

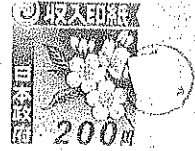
です。結局、指定管理者が図書館で利益を生み出そうとするならば、人件費の削減か図書費の削減しかないように思われます。

図書館における市民サービスの向上、優秀な司書を育成する為の必要経費、無駄の見直しによる経費削減、これらをバランスよく実施する必要があるのではないのでしょうか。



No. 007121

# 領 收 証



市井博幸 様

平成 29年 8月 2日

金額

千	百	拾	万	千	百	拾	円
	7		123		660		

但し

上記の金額正に領収致しました。

種 別	金 額	摘 要
請 求 額	7123660	
内 訳	小切手	
	手形	
	現金	7123660
残 額	0	



藤本印刷株式会社  
 FUJIMOTO PRINTING CO., LTD  
 本社・工場 兵庫県篠山郡三田町三田3-7-13  
 三田営業所 兵庫県三田市三田3-7-13

